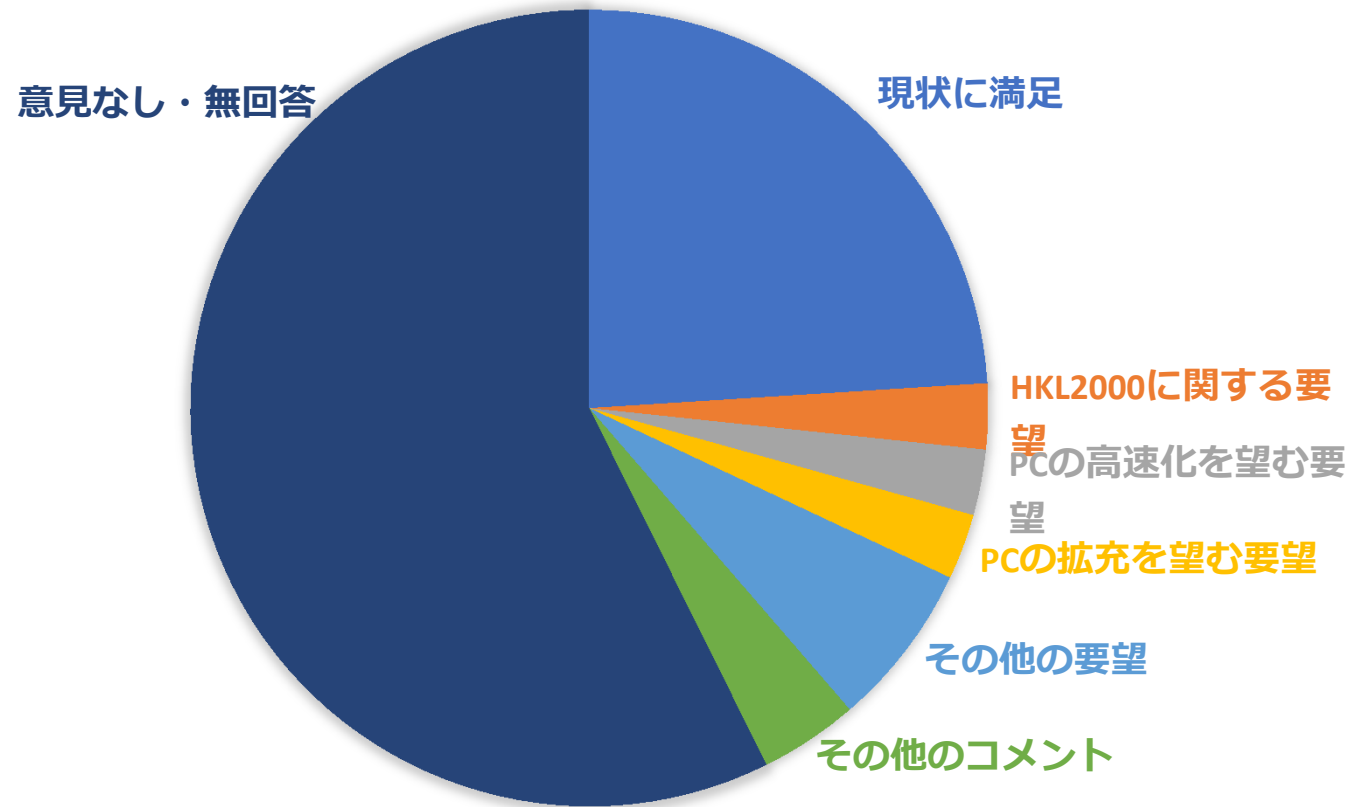


**PF-UA タンパク質結晶構造解析
ユーザーグループミーティング**

2016年度第1回幹事会アンケート結果を受けて

ビームラインPCにインストールされているプログラムに関して



その他の要望の内容

- 使用方法やコツがまとめられていると助かる
- コマンドラインでストラテジーからプロセスまで一貫して行えるとよい
- Pymol (オープンソース版でよい) の導入
- PReMoにてDiffraction scanした後の回折像が確認できない点を改善してほしい

ビームラインPCにインストールされている プログラムに関して

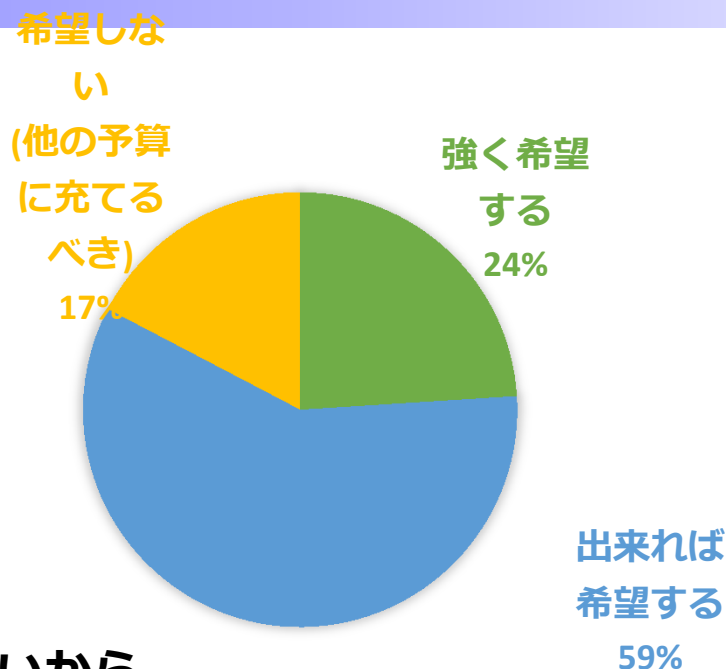
PCの高速化：

- データ収集用ネットワーク・ストレージ・計算サーバーの更新で、バックグラウンドの自動処理は高速化される予定（4月ビームタイム以降）。データセットの処理や回折センタリングの評価等。
- ビームラインサイトPCでのデータ処理速度は向上しない。
- バックグラウンド処理のPCをユーザーに公開すればインタラクティブなデータ処理を高速に実行できる（PCの台数的に今はムリ）。
- ビームラインに1～2台、高速（多コアの）PCを置く可能性はあり。

バックアップ環境：

- Cabin01に一台Windows機を増設します（HDDをLinuxでフォーマットしてはどうか？）
- データバックアップの速度向上はしばらく見込めません（ビームタイムの最初にバックアップセットして、それでも終わらないのか？）。

HKL2000ライセンス維持に関して



維持を希望する理由

- 慣れている, 使いやすいから
- 優れているから (指数付けにおいて)
- 回折像を目で直接確かめる
- 教育的観点から

希望しない理由

- XDSで完結するため

HKL2000があるに越したことはないが, 他の予算の内容によってはそちらを優先し, 廃止することもやむを得ないと考えているユーザーが多い。

ただし, 廃止の場合は, 代替ソフトに関する講習会を希望する声がある。

HKL2000ライセンス維持に関して

優れているので維持してほしいという意見に対して：

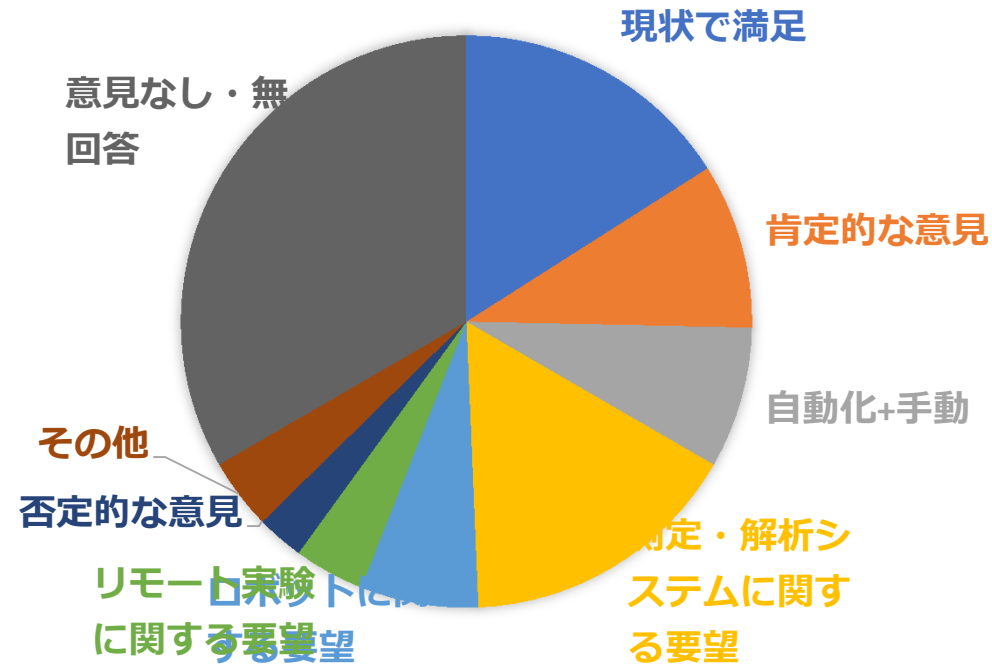
- HKL2000でしかうまくインデックスできなかった、処理できなかったというデータを募集し、他のソフトで処理してみる（そのような内容の講習会を開催する）。
- 教育的観点でのGUI → imosflmがあります。

他の予算に回しても良い：

- 浮いたお金は何に使う？ → 予算削減のため維持できないという話ではありますが、PCの高速化に使うのが候補の一つ。

講習会等でユーザーの理解を深めながら、2年以内（2018年度いっぱい）で廃止する方向で進めたい

自動化に関して



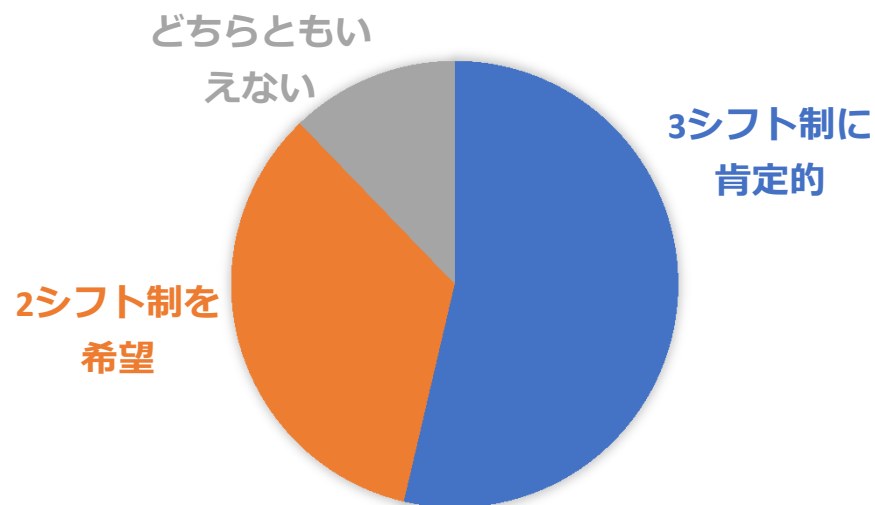
要望

- マニュアルで結晶をマウントするシステムも維持してほしい
- さらなる自動化の推進・結晶マウントロボットの高速化を希望
- サポート体制の充実
- 効果的にリモート測定ができるよう環境を整備してほしい

自動化に関して

- 様々な自動化に対する要望への対応、高度化は順次すすめます。
- 自動化を進めても、手動測定（自分で測定条件を決める等）、手マウント等は可能です。ただし、BL-1Aの手マウントは例外です。
- 自動化ビームタイムを設けて、結晶ができたらすぐ（2週間後？）に測定できるシステムをつくる。最初は留保ビームタイムの枠組みで。将来的には一つのビームタイムへの複数課題配分の枠組みを作る（要PACの承認）。
- 自動化システム（メールイン、全自動測定等）の対価として、一般共同利用に対しても課金する制度を将来的に検討。
- ロボットの高速化等に関しては、PDIS次期プロジェクトで実現される予定。
- リモートアクセス： PC1（データ解析用PC）にもN Xでアクセスできるようにします。

ビームタイムの3シフト制に関して



3シフト制の維持を望む理由

- ビームタイムが当たりやすくなるため
- 2シフト制では時間が余ってしまいビームタイムが無駄になってしまうため

2シフト制を望む理由

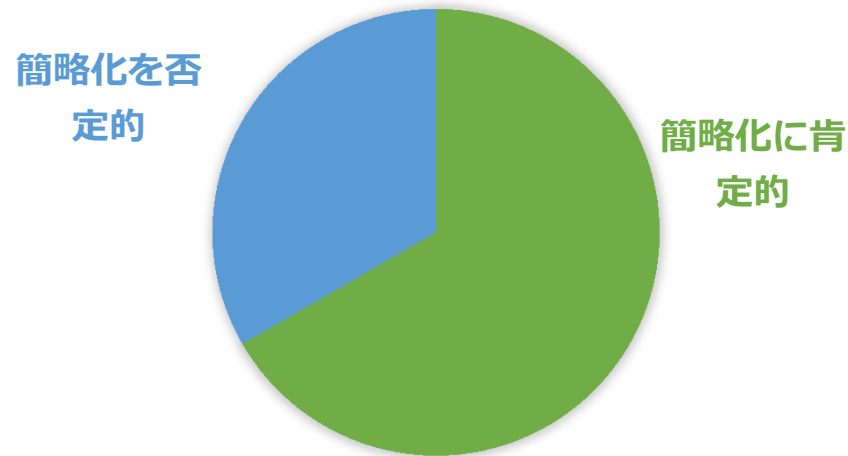
- 3シフト制で深夜帯に配分されると不便なことが多いため
- ビームラインスタッフの負担が増えるため
- ビームタイムの時間が短く十分なデータを収集することが困難なため

ビームタイムの3シフト制に関して

2シフト（連続した長いビームタイム）希望と、3シフト（短いビームタイムだが配分可能性が高まる）希望の折衷案：

- 夜間は1シフト16時間、1シフト8時間 x 2 の二通りとする。
- それぞれが各ビームラインでどのくらいの割合かは、配分希望を取る段階で決める。ユーザーは希望のシフトを選び、ビームタイムは、「シフト数」で傾斜配分する。

立ち合いの簡略化について



- 3シフト制を維持する場合、多くのユーザーがビームタイム切り替え時のスタッフの立ち合いを簡略化する方が良いと考えている。
- ただし、ビームラインとビームが正常に作動しているということが前提。
- 緊急時には個別に対応してもらいた。

- サポートがあれば安心して測定できるため、ビームタイム切り替え時には常に立ち会ってサポートしてもらいたいとの声もある。

立ち合いの簡略化について

- ビームタイム前に立ち合いの希望、実験条件、要望を伝えられるようなシステムを作ります。
- 基本は、すべて立ち会えるような体制を維持するよう、シフト体制も含めて運営します。

その他

- リモート実験のみのユーザーで様式10が必要か → 確認します